

審査委員 福井 通

この施設は、「みなとみらい21地区」のグランモール通りに新設された地上8階の都市型研修所である。従来の機能的な均質空間ではなく、緑化・省エネルギーを含む環境建築も意識し、快適なコモン空間である「多層中庭空間」を中心とした豊かで多様な空間を実現した事が高く評価され、最優秀賞に選定された。

デザイン・コンセプトは「地層」とされ、「知識や知恵の積み重ねを後進に伝えるための場」として「知層」の隠喩がイメージに重ねられている。この施設の中心である3階から8階を貫くすり鉢状の積層段状中庭と、その周りに多様に配置された研修室、食堂、レスト・スペース、及びファサード・デザインにも、このコンセプトが表現されている。

施設全体の空間構成は、中心部1、2階に大ホールを置き、その上部3階からは中庭を中心に、周りに研修施設、さらにその外側に宿泊施設を同心円状に配置した形式である。必然的に平面的には回遊型通路となり、立体的には避難動線は四隅に縦動線をとる等、建築計画的あるいは構造計画的その他、分かりやすい空間構成である。

基本的にはシンプルで合理的空間構成だが、それ故に単純で均質となりがちな空間を避けるため、随所に工夫が見られる。特に3、4、5階の中庭周りに配置された研修室相互の関係、及び研修室と中庭との内・外の関係のデザインは秀逸である。微妙に軸をずらし中間領域的空間を創りながら、視知覚的にも行動空間的にも内・外を含めた相互のコミュニケーションを誘発する工夫がみられる。

食堂は6階にまとめられている。この空間も吹抜け状中庭の周りを回遊できるだけでなく、中庭を介し見る見られる関係が快適にデザインされ、憩い・コミュニケーション空間を考慮し幾つかの小単位空間に分け、テラス空間も含め複数の異なる場所性を確保するよう内外の豊かな関係がデザインされている。

施設内には憩いの場となるレスト・スペースが各所に設けられ、これらの一部は都市空間を意識しデザインされているが、最大の特徴である「積層型中庭」が都市空間と関係づけられ都市景観にも貢献するようデザインされていると更にすばらしかったであろう。